

「大動脈感染性疾患に対する外科的治療戦略に関する研究」について

神戸大学医学部附属病院心臓血管外科では、現在、平成 11 年 10 月 1 日から平成 25 年 4 月 1 日の期間中に本院で治療を受けられた大動脈感染性疾患の患者さんを対象に治療成績の調査研究を実施しております。内容については下記のとおりとなっております。

尚、この調査研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております**[問い合わせ窓口]**までご連絡ください。

[研究概要および利用目的]

大動脈感染性疾患に対する外科的治療の成績は未だ満足のできるものではありません。大動脈感染性疾患に対する抜本的治療は感染病変を摘除と血行再建です。しかし近年ではこのような疾患に対しステントグラフト内挿術が施行され良好な結果も報告される一方で大動脈感染性疾患には禁忌であるとの報告も認めます。さらに本疾患を有する患者様の全身状態は不良な場合も多く、時として外科的治療に難渋します。本研究の目的は、当科で経験した大動脈感染性疾患を後方視的に検討することにより本疾患の問題点を明らかにすることです。

[取り扱うデータ] 患者さんのカルテから以下の情報を収集させていただきます。

年齢、性別、血液検査結果（CRP, WBC, Hb）、血液培養の結果、併存疾患の有無、熱発の有無、手術時に採取された大動脈壁の病理診断結果、感染再発の有無、患者さんの生死

[個人情報保護の方法]

個人情報、検査結果などの記録、保管は第三者が直接患者さんを識別できないよう登録時に定めた登録番号を用いて行います。また得られた記録は、インターネットに接続していない外部記憶装置に記録し、神戸大学大学院医学研究科心臓血管外科学研究室の鍵のかかる保管庫に保管します。

[研究参加による利益・不利益]

利益・・・本調査に参加いただいた患者さん個人には特に利益と考えられるようなことはございませんが、調査結果が、今後の予後の向上に有用となる可能性があります。

不利益・・・カルテからのデータ収集のみであるため、特にありません。

[研究終了後のデータの取り扱いについて]

研究終了後には、データは、患者さん個人を特定できない状態にして廃棄します。

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者さんの個人情報の秘密は厳重に守られますので、第三者に患者さんの個人情報が明らかになることはありません。

[研究へのデータ使用の取り止めについて]

いつでも可能です。取り止めを希望されたい場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、結果を廃棄できない場合もあります。

[問い合わせ窓口]

この研究についてのご質問だけでなく、ご自身のデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合や、あるいはご自身のデータの使用を望まれない場合など、この研究プロジェクトに関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせ下さい。

神戸大学大学院医学研究科外科学講座心臓血管外科学 教授 大北 裕
連絡先：078-382-5942